

各国の知見共有

東アジアダム会議 16カ国が参加

日本、中国、韓国の大ダム会議で構成する東アジア地域ダム会議は、3日から7日にかけて第12回会合を開いている。4日に名古屋市のグロバルゲートで行われた開会式・シンポジウムには3国をはじめとする16カ国のダム事業関係者が参加し、知見を深めた。写真。



冒頭、あいさつに立った平井秀輝日本大ダム会議会長は

「各国の知見や調査結果を共有し、持続可能な社会の実現に向けた学びにつなげることを期待する」と呼び掛けた。

その後、ミシェル・リノ国際大ダム会議総裁があいさつしたほか、アントン・シユライス元同会議総裁による「エネルギー転換に向けた水力発電所の持続可能な利用と拡大の重要性」をテーマにした基調講演などを行った。

シンポジウムは4、5日に「次世代に向けたダム貯水池の持続可能な開発・管理」をメインテーマに開いている。気候変動下における貯水池・土砂管理やダムの安全評価と調査などに関する論文発表などを行う。

6、7日には技術見学会を実施し、6日に小笠ダム（長野県）と小里川ダム（同）を視察する。

東アジア地域ダム会議は2004年に発足した。ダム事業の持続可能な維持発展のためにも、技術について情報交換を行っている。

建設通信新聞 DIGITAL kensetsunews.com

電子で読める総合建設専門紙

建設通信新聞Digitalは、インターネットで新聞紙面が読めるサービスです。



風波

ユーモア 一生命保険の川柳コンテスト10が発表 第1位は「減るせいたきの中で、重くなる悲哀をつたつ」◆「税金見ざる買わざる」店には「追いつかず」も目立った◆「過去象」。激甚災害の頻つある。地域の守り命は大きい◆「仕事下は減る」は昨今、話だ。少子高齢化でどつやら建設業だけ